

地域からのご意見・ご提言（1）

分野	ご意見・ご提言の要旨
1 地球 温暖化	石油がなくなった時代の燃料はやはり木になる。計画の中に次世代エネルギーを加えてほしい。
	京都議定書や温暖化効果ガスの削減目標に対して、長野県に限っては具体的に削減の数値目標を盛り込むなど、具体的な策を盛り込んでほしい。
	今一番グローバルな問題は地球温暖化問題である。県として、松本地域としてどのように取り組んでいくかを考えてほしい。
	規格外の農作物等を利用したバイオ燃料（エタノール）を地域で使うという取り組みもどうか。
5 6 7 森林	山林整備は今すべき時、私有林に手が入っていないことを危惧している。森林整備の推進は村にとって大きな問題である。
	カラマツにおける国の新生産システムが、長野県では全く取り入れられていないので取り入れてほしい。
	自然の美しさは守り続けていきたい。山の樹木が害虫で枯れる様をみるが、害虫の駆除で自然を守りたい。
8 9 水・大気 環境	地下水涵養量の減少、地下水の使用量の増加、地下水の湧出量の減少などが新たな行政課題であることから、地下水を含む水環境の保全に関する施策も必要と考える。県も何らかの意識をもってほしい。
	飯山市全域の下水道完備、それに伴うトイレの水洗化をして欲しい。
10 自然環境	山岳観光という視点で登山道に対する整備と管理体制の構築をしてほしい。
11 12 13 資源循環 型社会	最終処分場はもっと前向きにやってもらってよい。最終処分に関しては、民間だけというわけにはいかない。公共の関与は必要である。
	不法投棄が中山間地域には多い。その辺を載せてほしい。
	県の長野県廃棄物処理計画（第2期）では最終処分場整備の基本的方向を公共的関与による施設整備を行えるよう準備を進めるとしている。中信地域の最終処分場は前計画時のひっ迫した状況と何ら変わりはない。23年度からの次期計画において、県の責任のもと、公共関与による廃棄物処理施設建設の必要があるため、検討を。

14	資源循環型社会	産業廃棄物処理施設の許可権を持つ県として、施設及び周辺のダイオキシン類の調査を継続的に実施するとともに、処理業者への廃棄物の適正処理のための関係法令の遵守及び合意形成地域との協定事項の履行に係る強力な指導が必要なため、検討を。
15		廃棄物、不法投棄の問題は、単独の市では取り締まれない。県などの公権力の行使・介入が必要である。
16	環境保全活動	観光よりも環境である。環境を重視すれば、結果的に人が住むようになる。
17	景観	松本・安曇平の屋敷林を県の「宝」と位置づけ、屋敷林保全の助成の復活を。屋敷林を商品化し、観光宣伝の推進を。
18	農山村多面的機能維持	暮らしやすく子育てしやすい地域にするために「地域在来の生物多様性に富む里山、里地、里川」を「地域のお宝」と考え活かす必要がある。
19		荒地をなくすようにしてほしい。個人が手入れ不可能なときは、一般に呼びかけ手入れをする手立てをしてはどうか。
20		学校給食へ食材提供、中・高生の農作業体験受け入れ、小・中学校へ農業についての出前講座などを現に行っているが、エコファーマー等もっと勉強し、全員が認定とされる事も大切だと思う。
21		有害鳥獣駆除の関係について里山整備と併せて実施できないか。うまく表現してほしい。
22		遊休荒廃農地が多くなってきている。山浴いが荒廃し有害鳥獣の被害も増えている。農業をする人達も不安を抱いている。
23		最近、有害鳥獣対策は深刻な問題である。既に共存というレベルではなく闘いの領域に入っている。記述をしてほしい。
24		有害鳥獣について、農作物にかかわらず、人的被害がいつ出てもおかしくない状況。多方面からの意見も採り入れたうえで、営農面・環境面等多様な対応が必要と思われます。
25		有害鳥獣被害を防止して欲しい。
26		遊休荒廃農地の増大を防止して欲しい。
27		海外事務所については、急にはできないが、名古屋事務所を通じて韓国事務所を復活するなど強く願います。
28	ものづくり産業	産学官連携について、医療・福祉の産業の創出とか、ベンチャー企業に力を入れるといったようなことをあげたらどうか。
29		ものづくりに関して、伝統工芸の技術の伝承のようなものの具体性を示してほしい。

30		上伊那の工業を支える人材を育て、又、人材の流出を防ぐために、上伊那地域に県工科短期大学の設置が必要である。
31	ものづくり産業	サービス業は新しいモデルを出しても、すぐ真似されて陳腐化してしまう。5年くらいしかもたない。高付加価値な「ものづくり」が、やはり一番良く、ものづくり産業の振興をしてほしい。
32		若年層の就業の場が激減している。新卒を含めて若い人が故郷で仕事を求めても雇用がなく、県外就職を余儀なくされている。地場産業の育成、助成をしないと東京本店の大手、チェーン店等に独占される。
33		中野の工場団地には優良企業が少なくなった。地域全体への企業立地を進められたい。
34		時間距離の短縮や価値観の多様性から観光収入は落ち込んでいると考えられる。「周遊・滞在型の広域観光の振興」と明確に位置付け、情報発信も含めて、その調整役を県が担うことが必要と考える。
35		観光はより広域的でないといけない。県にも観光部ができた。松本平の観光は大町も含めた広域で、今まで以上に力を入れていかないといけない。
36		大王わさび農場に訪れる観光客は、台湾、香港、韓国、マレーシアが多い。滞在型の観光を目指す、とりかかりが解らない。できれば、計画に明記してほしい。
37		観光で大切なのはPRである。長野県の観光はやはり山である。山岳観光という活字を入れた方がよい。温泉も資源として考えられる。海外からの観光客にとって温泉は魅力であり、世界的な傾向である。観光については重点的な計画を。
38		松本で観光を考えるのであれば、街道文化をとらえてもよいのではないか。中山道や善光寺街道、松本城らがタイアップした観光宣伝が必要である。
39	観光産業	標高の高さを利用したスポーツ選手の高地合宿、体験を兼ねた修学旅行や高地の観光利用など、特性を活かした取組みはどうか。
40		国内だけでなく、海外を強く意識した観光政策を進めるべき。外国人観光客が集まれば、それに引っ張られて国内観光客もひきつけられる。喫茶店や食堂での受入れ態勢、外国から移動しやすい環境（松本空港と国内のハブ空港との接続便）の整備を推進して欲しい。
41		観光地としてどなたがこられても良いような、人にやさしい街づくりをしてほしい。
42		海外（特に中国、韓国などアジア）に目を向ける必要がある。海外から来る人も目的を決めた一点重点主義で来る。韓国ではゴルフ場もスキー場も少ない。これらを用いた観光振興も効果があると思われる。
43		すでに、飯山市で本年5月より森林セラピーツアーを開始したが、国も提言している生活習慣病予防を目玉として、観光、農業（食）、医療を組み合わせたツアーをプロジェクトチームを組織して立案してはどうか。
44		環境の整備（特に景観や水質保全）を図り、農業や観光を通して都市交流を図ってゆくこと。
45	農業・農村	小規模農業を支えていく体制、施策を盛り込んでほしい。

46		農業については、若い人はやらないし、高齢者は自分の生きている間はやる、とやってやっているが、今後の農業人材不足が懸念されることから担い手の対策が必要である。
47		団塊の世代は田舎志向が強い。しかし、農業の担い手にはなれない。収穫の時に来てもらい、温泉に滞在してもらって、ゆっくり過ごしてもらって体制を整え、できるだけ団塊の世代を取り込むような方向がよいと思う。
48		誰々が作った食材・・・などの説明書や能書きがあると安心感と満足感につながる。地のものを作りながら、情報発信を徹底的にやっていくことが必要。
49	農業 ・ 農村	団塊世代あるいはリタイヤ世代・現役世代も安心・安全な就農できるように、下限面積の引下げにより所有農地での耕作が可能となるように要望する。
50		群馬県では農薬の空中散布は中止していると聞かすが、当地では山も農地も人や環境に負荷の大きい農薬の空中散布が続けられている。また、果樹団地の農薬散布は異なる日に誰かしらしているが、統一した日にやればよい。
51		毎月の河川清掃から見ると、川のゴミは農家の使用したビニールが断然多く、缶、ペットボトル、食品のあまりものなど。
52		風蝕防止について、対策は一生懸命やっていくので、県の支援もお願いしたい。
53		水田の宅地転換による住宅建設はすごい勢いで進んでいる。数年で美田がなくなる恐れを感じる。
54		カラマツ材は大分利用しやすくなったが、うまくPRできればよいのだが。
55	林業 ・ 木材産業	松くい虫対策については、県で明確な方針を出してほしい。
56		いわゆる松くい虫対策のくん蒸処理のビニールは役目を終わればゴミ、山はゴミだらけ。なぜ最後まで責任をもって実施できないのか。
57		里山は、つる切、適正な密度にするための除伐、間伐の施業により山林の価値を総合的にみて混交林、覆層林に導く必要がある。
58	商業 ・ サービス産業	県の施策として中心市街地の空洞化対策など明記できるものがあれば、施策展開が必要と思う。
59		宅建業者によるリフォーム済み中古住宅売買の時の消費税課税の見直しと安価でエンドユーザー様に引き渡せるように不動産取得税の見直しを求める。
60		私は将来を担っていく子供たちが、1日外で遊んでも安全で安心で、同時に文化を継承できるような街づくりができると、人があふれ、商店が繁盛する街に繋がるのではと思う。
61	ブランド 創出	企業PRも必要である。隣の会社では何を作っているのか知らなかったが、よく聞いてみると世界的に通じるものを作っており、たいへん驚いたことがあった。

62		健常者の引きこもりというような若者たちに対する若年層のためのジョブコーチみたいなものを考えてほしい。
63	労働環境	「暮らしあえる地域づくり」が重要である。労働者は材料のように扱われ、企業では今日一日必要な人材は派遣会社から派遣してもらえばいい、というように、人が物扱いされているので労働環境の改善をしてほしい。
64		派遣労働を、日雇、パート、臨時のような形で行い、働く場を確保したことがあったが、これを農業、林業向けに行い、若者に呼び掛けてもらいたい。とりあえず派遣でもいいけれど、仕事のない若い人を行政の力で農業・林業に出してきてもらいたい。
65	健康づくり	精神保健福祉について、市町村ごとの格差をなくしてほしい。医療・保健・福祉の連携により、24時間いつでもどこでも相談できる体制づくりを点検してほしい。
66	医療	医師はすべて公務員にしてほしいと思っている。山間僻地で3～4年の勤務を義務づけ、その後は高度医療など人生設計も考えながら選択していくこととしてはどうかと思う。
67		年金からさらにお金を集めるような後期高齢者医療制度には反対である。
68	高齢者福祉	高齢者を地域で支えるシステムを考えてほしい。
69		宅幼老所の新設補助金を制度として考えてほしい。
70		宅幼老所をやっているが、ショートステイの要望は多く受けるにも限度がある。行政でもこの対応をお願いしたい。
71	障害者福祉	発達障害の子どもの場合は早期発見、正しい療育が大切。障害者の保育だけではなく、療育も考えていってほしい。
72		障害を持つ子ども達の療育に必要な部分の費用については、もう少し支援がほしい。
73		ユニバーサルデザインとしての文字情報をお願いしたい。文字情報をつける活動を推進してほしい。
74		軽度発達障害の子どもの親への支援を行っているが、行政として民間がやっていることが良いと思った時、奪って違う形にしてしまうのではなく、民間を活用して連携する形にしてほしい。
75		子どもの発達障害に対する支援に関して、民生児童委員や保健師など、行政絡みの人達を有機的につなげ、そこにNPOも組み込んでほしい。
76		知的障害者の求人はほとんどない。行政側から企業側への就労に関する働きかけをお願いしたい。農業などに携われるような、そんな機会を与えてほしい。
77		障害者のグループホームを作りたいという話があったが、地元の反対で潰れてしまった。行政を含めて共生共助の社会づくりに取り組んでほしい。

78	障害者 福祉	行政として、障害者がハンデの中でできる仕事を積極的に業務委託を出してほしい。そういう中で地域に出る準備ができた人達から行政で雇用の機会をつくってほしい。
79		ジョブコーチをつくるための講座を県として開設してほしい。この講座は商工部で取り入れて、県全体として障害者施策を進めてほしい。
80		障害者の支援・指導に関して、ジョブコーチの養成により、一般企業とのつなぎをしてほしい。
81		西駒郷又は駒ヶ根病院の改築に併せて、リハビリテーションセンターを設置して頂きたい。
82	治山 ・ 治水 ・ 砂防	防災対策について、住民は自主避難とかを勉強していく。県はハード面の整備に予算をたくさんつけて、山間地の安定を図ってほしい。
83		生坂ダムには相当のゴミが流れてくる。河川美化も考えてほしい。
84		河川整備や耐震化促進等、災害に強いまちづくりの推進に努める旨の記載の検討を。
85		中野市延徳地域は、毎年水害に見舞われ、水田ばかりでなくキノコハウスが水につかる被害が発生している。千曲川工事事務所にも関係するが、県でも内水対策に力を入れてほしい。
86	防災	災害時の緊急輸送道路をどうやって確保するか。国道19号は県指定の第1次緊急輸送道路であり、しっかりと位置付ける必要がある。
87		耐震補強について学校には手厚いが役場庁舎には支援制度がほとんどない。有利な起債や交付金があればよい。国に言ってほしい。
88	防犯	警察官の増員をお願いしたい。
89		警察官の増員をお願いしたい。
90		松本駅前の交番など、治安維持、利用者の利便性の観点から、交番の位置について再度チェックしてほしい。
91		住みよい社会をつくるための治安を願う。
92	学校教育	難聴児童の対策として、中学校や高校に通う際の通訳支援を、ぜひお願いしたい。
93		山は子ども達の教育に達成感を与えるという面では大変によい。学校登山の促進など、教育を踏まえ検討してほしい。

94		特色ある地域高校を育む姿勢が必要と考える。
95	学校教育	子どもの育成の中に、小規模小中学校と市立の大規模小中学校の交流事業を入れてほしい。
96		教育を大切にしたい予算編成を行って欲しい。
97		松本城の世界遺産の指定についても、松本の地域性の中で一歩踏み込んでほしい。
98	文化芸術 ・ 地域文化	木曾から中津川を含めて木曾全域を世界遺産にするチャレンジを考えている。できないにしても、そこを守り育てることが必要である。合併により木曾の一部が入ったことで、観光PRもしやすくなったし、観光的投資もしやすくなった。
99		地域性を大切にしていくなため、地域における日常の言葉を話し続けられないか。地域の言葉はふるさとの根幹である。30年もすれば消滅してしまう。
100		県、市町村を問わず、体育施設の予約について、現在の前泊しなければ予約できないような仕組みを改善してほしい。
101	スポーツ	松本広域公園にも芝生のサッカー場が4面あるが、一般の人は借りられない。地域の住民に開放できる時間を増やしてほしい。
102		生きがいを持ち、健やかに暮らすために生涯学習（生涯スポーツ）を振興する施策が必要である。
103		スポーツ施設（県営野球場）の松本地域への整備の記載はできないか。
104		松本空港拡張の際の約束、県営野球場について、地域バランスも考え、安曇野市に整備してほしい。
105		市町村が抱える重点的な課題を把握し、4年間でこれだけはやるというものを挙げていく必要がある。
106	市町村 ・ 地域 づくり	過疎地域の課題に関して、一つの部、局の対応ということだけでなく、各部横断・連携により、有機的に施策をつくってほしい。
107		松本地域では、3市1町5村と地域も大きく変化している。広域行政の果たす役割が更に大きくなる。広域連携の重要性、進む方向付け等を示してほしい。
108		松本平はひとつであり、塩尻市、大町市を含めて広域合併をしてほしい。
109		住民に「協働」の意識を高め、行政に頼らぬ住民主体の地域づくりが必要である。

110	市町村 ・ 地域 づくり	市町村合併が進まなかった長野県では、小さな圏域においては広域連合のキャップを県（地方事務所長）が務め、公共に関して公平なサービスを行うべきである。
111		県は、小さな圏域の広域連合に人や金を出し、県民に公平なサービスを提供することが望ましい。
112		行政区域について、当面、岳北、岳南単位に合併促進を進め、将来的には一本化にしてはどうか。
113	ボラン ティア ・ NPO	住民ニーズにこたえるためには、行政とNPOが連携していくという視点が望ましい。連携による県政の運営により、お互いの強い部分が相乗効果を生む。
114		補助金への支援などによりNPO団体の組織強化を図ってほしい。
115	国際化	外国人労働者も、世界で経済活動をしている商社が連れてくる。決して幸せではない。何を望んでいるかという視点を持って、共生できる対策を立ててほしい。
116	まち づくり	松本城を中心とした回遊性のあるまちづくりにも配慮してほしい。
117		広域的な土地利用に当たっては県レベルで統一的に進めてほしい。
118		松本地域内の自治体によっては土地の開発規制が緩いため農業投資を行った優良農地内に商業施設や住宅施設の立地など乱開発が進んでいる。まちづくり三法の改正やコンパクトシティの理念からも逸脱し、県都市計画ビジョンにも適合していないため検討を。
119		これからは人が集まりやすい所を駅周辺に作り、生涯学習の拠点を設けるなど、機能を市街地に集積させた方がよい。そのためには行政がある程度誘導する必要がある。
120		これまでは、中心から郊外に住まいと暮らしの拠点を拡散する傾向が続いたが、このままでは人口の増加や若い世代の定住は望めない。多世代がまちなかや集落のなかに住める住環境を意識的にすすめる必要がある。まちなかや集落の中心の空いている土地にコーポラティブハウスをつくるなどの方法を提案したい。
121		民間の良質の賃貸アパートをつくり、若い夫婦や若者、高齢の単身者が同じ建物やコミュニティに住み、地域の活性化につなげる。民間賃貸アパートには家賃の公的な補助制度を設けて促進を図る。
122		県外との交流を考える中で、首都圏等との交通の便の悪さの解消を。
123	高速 交通網	中部縦貫自動車道と松本糸魚川連絡道路については、方向を明らかにしておく必要がある。
124		松本空港拡張の際の約束（県営野球場の整備ほか）をきちんと計画に位置付けてほしい。
125		松本空港チャーター便に関しては、数値目標をはっきり掲げて、ダイナミックな施策を取り入れることが重要である。

126		松本空港に商工部や観光部の現地機関を置き、現場での状況把握を考えてほしい。	
127		松本空港における I L S 導入について再度確認をする必要がある。再検討してほしい。	
128		観光部と松本空港とで横断的な接点のもてるような調整をしてほしい。	
129		安心・安全なる利用等を全面的に出すなど、松本空港の利用率のアップを最大に考えてほしい。	
130		元気づくり支援金の全額を松本空港に投入するくらいでもよい。	
131	高速 交通網	松本空港の利用補助は5,000円で10万人位に出さなければいけない。利用促進を進めるには、目に見える補助が必要である。	
132		空港の整備についてどう捉えるか、I L S の導入や利用者の利便性の確保、具体的な利用促進策など、ハード、ソフト両面の具体化が必要である。	
133		企業誘致（働く場の創出、人材流出防止）、観光による交流人口の増加のためにも道路交通網整備が一段と重要。 まず、北陸圏を結ぶ中部縦貫自動車道の早期建設を望む。	
134		富山・岐阜とつながる中部縦貫自動車道、新潟とつながる松本糸魚川道路（波田～糸魚川間）の着実な整備を促進してほしい。	
135		中部縦貫自動車道の県内未定区間の整備について、知事は現道（国道158号）の改良での整備との考えを示した。となれば、都市計画決定されている松本・波田間、波田下島・島々間の整備の必要はなく、松本・波田線の建設と下島・車坂線の二車線化に反対であり、不要である。	
136		道路網	国道158号の奈川ダムから下の3つのトンネルを南側に2車線でいかにつけるかが最大の課題、骨太に表現してほしい。
137			国道158号の波田バイパスの1.5車線、2車線問題の早期実現を。
138	交通網を含めた地域のあり方を明確に表現してほしい。		
139	自転車で走り回れるような、歩いて楽しめるような歩道の整備を進めてほしい。		
140	上田から松本空港を結ぶ幹線道路の整備が必要である。		
141	上高地などの岐阜県側の道路整備が進む中で、長野県側の整備の推進と、温泉などを活用した長期滞在型の観光を戦略的に考えてほしい。		

142		5ヶ年計画において、松本糸魚川連絡道路について、中央道から波田分岐までが明確に位置付けられないといけない。また、松糸と中部縦貫自動車道は、多少の後先はあっても、上がりが一緒でなくてはならない。
143		まず生活道路の整備が必要である。中山間地域における国道、県道の整備推進を。
144		中部縦貫自動車道、松本糸魚川連絡道路、国道158号の整備については、計画に位置付けてほしい。
145	道路網	毎年のように豪雨災害で交通が遮断される国道158号の円滑な交通確保、市街地主要交差点の改良、歩行者通行量が多い道路への歩道設置も重要なため検討を。
146		上信自動車道については、できるだけ早めに、県としても本格的にお願いしたい。
147		グループホームでの生活において、近所の散歩は欠かせない日課である。歩行可能な人、車椅子等の人があり、道路が広くあってほしいが、車椅子が押しにくい道がほとんどである。側溝のフタに輪がはまってしまったり、道がデコボコしている。
148		新幹線飯山駅開業に併せ、各市町村からのアクセス道路網を整備し、奥信濃の活性化を図る。
149	公共交通	J R篠ノ井線の複線化を。
150		県議会公共交通等調査特別委員会調査の中で、 1 特急「(スーパー)あずさ」の飯田線への乗り入れについて 2 上下伊那地域と北信地域(長野市等)間の利便性向上について 報告されているが、今計画に反映させるべきである。
151	情報化	地上デジタルテレビ放送の開始に伴い、地上デジタル対応機器等に要する費用を県補助金により支援してほしい。
152		中期総合計画に声を反映させるのであれば、分科会とか各専門分野別での懇談会開催のような手法も考えてほしい。
153		5ヶ年の中期計画とすれば、重点施策をどこへもっていくかということだと思う。
154	その他	中期総合計画と組織再編の整合性を取るべきである。
155		地域編に数値目標や目標達成年次を明確に定めた方がよい。
156		緊急の課題として計画期間中の5年でやるものと、今後10年15年と継続していく課題、これを2つに明確に区分して計画を策定すべき。
157		12月県会ぎりぎりに示されても、市町村との話し合いなど対応ができない。10月下旬か11月上旬には最初の案を示してほしい。

158		地域編では5年後を見据えたものと、10年後を見据えたものなどの区分した盛り込みが必要である。
159		大綱（案）のグローバル化という言葉は古めかしい気がする。今までのと変わり映えしない気がする。
160		地球温暖化の防止、医療の整備、高齢者の介護サービス、子育て支援というような日々の暮らしに関わる事項は計画にきちんと位置付けてほしい。更なる具体的な充実を。
161		計画の策定においては、現場に携わっている皆さんの意見をしっかりと聞くことが必要である。
162		計画で種まきとして、5年・10年・15年かかる事業も盛り込んだうえ、継続性を担保してほしい。
163		一般競争入札制度に関して、弱小町村では総合評価事業審査会の立上げは難しい。県は指導・協力・支援をしてほしい。
164		中期的に実施する事業、将来に向けた事業、各自治体間で協力して実施する事業等、分野でわかり易く分類してほしい。
165	その他	これからの5年間、どのようなシステム・プロセスで地域間格差の是正に取り組むのか明確に記載する必要がある。長野や松本などの大きな圏域と木曾、大北、北信などの比較的規模の小さな圏域の格差是正をどうするのか。
166		長野県はどのような方向で進んで行くのか、わかりやすく県民に示す必要がある。長野県が何に力を入れてやるのか、長野県はこうやるということを出す必要がある。
167		地域が頑張っても、グローバル化した現代においては世界情勢の影響を受ける。それを原点において、長野県はこうやるんだ、ということを知りやすく示す必要がある。
168		計画はあまり長くダラダラしても、読みはしない。誰が見てもわかりやすい形で示すのが大事である。
169		村井県政はこれを目指しているということを知りやすく示すこと必要である。観光なら1億人をめざすとかいうように目標を作り、わかりやすく示すことが必要である。
170		県全体の課題を示し、その中でも特に地域が抱えている特有の課題をはっきりと示した上で、それに対する施策のあり方や考え方をまとめていただいたほうが分かりやすいのではないかと思う。
171		中期総合計画が市町村にも親しみやすく、実効性のあるものにするためにも、別冊の「資料編」を作成し、各部署の主な事業を位置付けることが必要だと思う。
172		少子化対策、年々減少する人口に行政はどう顔を向けるか。例えば、6年後小学校入学児童が6名となる少子化時代を迎える実態がある。行政は福祉・町づくり・産業などの施策を講じているが、人がいなければその施策は身のないものとなる。